



令和8年1月8日

昭島市立富士見丘小学校 きこえとことばの教室

初春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。新年になり、子供たちは気持ちを新たにして3学期を迎えていると思います。冬休み中にした様々な体験の話を聞くのが楽しみです。引き続き、子供たちに寄り添いながら、一緒に活動していきたいと思います。

活動報告

今月はきこえグループと12月に開催した交流会の様子の一部を報告します。

<きこえグループ>

今年度は6年生1名、3年生1名、1年生1名の計3名が参加しています。

「相手の話をよく聞く」「相手にわかる声の大きさで伝えること」を目標として、11月に3回目を実施しました。

2学期の学校行事について、各児童の学校での行事について発表しました。事前に、個別指導で担当の先生と相談し、ノートに話したいことを書いたり、自分の頭の中でまとめてから話したりしました。直近で行ったきこえの理解授業の感想を発表する児童、市内小学校の児童が参加する音楽会での感想を発表する児童がおり、声の大きさを意識して伝えることができました。また、それぞれが関心を向けて聞くこともできていました。



2つの絵を見て、絵の違いを探し、文で書いて伝える「まちがい探し」を行いました。例えば、「男の人がだんごをもっている」のようにして答えました。全部見つけて発表することができ、嬉しそうにする姿も見られました。3学期も楽しく交流できる活動を行う予定です。

<2学期 交流会>

今年度第1回の交流会を12月17日に実施しました。「キャンドル作り」に子供と保護者合わせて55人が参加しました。5~6人ずつのグループで紙コップにろうそく用の芯や好きな形のブロックや飾りパーツを入れていき、最後にろうを流し入れました。固まるまで時間がありましたので、ゲームを楽しみました。



「こころを1つに」というゲームでは、お題に対してみんなが書きそうな答えを、グループで相談して書くようにしました。「人気の給食」というお題に対しては「あげパン」と答えるグループがほとんどでした。他に、「カレー」という答えもありました。



「飛んだの何だ?」というゲームは、衝立の間から飛んだものが何かを考えて、グループごとに答えました。「ペンギンのぬいぐるみ」は簡単だったようで、すぐに当てることができました。「みかん(模型)」はヘタの部分が見えず、やや難しかったようで、「柿」「ボール」など答えが分かれました。

自分たちが作ったキャンドルが固まり、家で灯を付けて楽しむよう持ち帰りました。工作やゲームなどを通して子供たちの交流が図られるよい機会となりました。3学期も交流会がありますので、大勢の参加をお待ちしております。





吃 音



吃音とは、話すときにつかえたり、同じ言葉や音をくり返してしまったりしてなめらかに話すことが、難しいことです。主な症状、特徴、接し方などについてをお伝えします

<吃音の主な症状>

- ・連発（「ばばばく…」など音や語をくり返す）
- ・伸発（「ぼおーーーく…」など音を引き伸ばす）
- ・難発（「……ぼく…」など最初の音が出づらい）
- ・随伴症状（難発に伴い、顔や口に力が入り、手足でタイミングを取るなど）

<吃音の特徴>

- ・言いやすいことばと言いにくいことばがある
- ・長く話せば話すほど吃音がよく出る
- ・吃音には好不調の波がある（調子がよくなめらかに話せるときもあれば、調子が悪くてくり返しが多くなったりする。）

<吃音のある児童への接し方とお願い>

- ・話し方のまねやからかいをされると、本人はつらい気持ちになります。見つけたら、すぐに注意をしてください。
- ・話し始めるのに、また、話し終わるまでに時間がかかることがあります。本人は最後まで自分が話したいと思っています。話し始める、終わるまで待つなどあせらずにゆっくり接してください。
- ・児童一人ひとりへの配慮は違います。本人と相談して配慮を決めてください。例えば、授業中に挙手をするのに難発で言いづらいので“当てないでほしいと”いうときに、グーで挙手するという合図を決めておくなどの配慮をお願いします。

周りが吃音について正しく理解することが、安心感につながります。本人が悩んでいる、学級や家庭での対応などで困っているなどありましたら、気軽にきこえことばの教室へご相談ください。

参考図書：「ふしきだね 言語障害のおともだち」ミネルヴァ書房
「子どもの吃音 ママ応援 BOOK」学苑社

<1月～2月の主な予定> 今後の予定について

1月 9日（金） 3学期通級開始

21日（水） 研究会のため 午後の指導なし

28日（水） きこえグループ

2月 4日（水） 研究会のため 午後の指導なし

18日（水） ことばグループ

